

三中だより

令和6年度 6月号



令和6年6月14日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 4)
校長 小柴 憲一

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接することのできる人

私たち人間は一人で生きているわけではありません。同級生の一員として、同僚の一員として、あるいは社会を構成する一員として生活・活動するなど、常に何らかの集団に所属しています。集団に所属することにより、自分の居場所を見出したり、自己の能力の発揮により自己肯定感を高めたりすることができます。

しかし集団とは、一部の影響力のある人の言動に左右されてしまったり、互いに同調するからこそ起きてしまう一時的な興奮状態になってしまったりすることもあります。

若者の不道徳で不条理な行動が報道されたり、SNSを通して特定の人物が過度な誹謗・中傷を受けるような事態になったり、大人社会でも複数人で法に抵触するような行為が明るみに出たりすることがありますが、これらは単なる集団の中の一員であり「隠れた存在にある」という、自己認識が低く誰もが我を忘れた状況に陥っていることにより起こっていると思われます。

だからこそ、集団の中で生きていくからには「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接する人」に成長していくことが求められるのです。

「正義を重んじる」ということは、正しいと信じることを自ら積極的に実践できるように努めることであり、「公正さを重んじる」ということは、私心にとらわれて事実をゆがめることを避けるように努めることです。つまり、道理にかなって正しいことを自ら認識し、それに基づいて適切な行為を主体的に判断し、実践しようとする意欲や態度をもつことなのです。

また、「公平に接する」ためには、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることが大切です。好き嫌いは人間の感情であるため、全くなくすることはできませんが、とらわれないようにすることはできるはずです。つまり、好き嫌いから他者に対して偏見をもたないように努めることはできるのです。自分と同様に他者も尊重し、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとするのが重要なのです。

集団の一員として人とのかかわりの中で生きていくためには、正義と公正さを重んじる精神が不可欠であり、物事の是非を見極めて、誰に対しても公平に接し続けようとする必要があるとなってきます。

中学生の段階でも、入学して間もない時期には、自己中心的な考え方や偏った見方をしてしまい、他者に対して不公平な態度をとる場合があります。また、周囲で不公正があっても、多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないこともあります。そのため、いじめや不正な行動等が起きてても、勇気を出して止めることに消極的になってしまうことがあるのです。

大切なことは、人間なら誰もがもっている、そうした自分の弱さに向き合い、同調圧力に流されなくて必要に応じ自分の意志を強くもち、教員や家族に報告・相談したりすることに躊躇しないなど、自分の弱さを克服して、正義と公正さを実現するために努力することなのです。

そして、学年が上がるにつれ、社会の在り方についても目を向け始め、現実の社会における矛盾や葛藤、さらに、差別や偏見といった社会的な問題を見いだすこともあると思います。その場合でも、単に現状を諦めて見過ごすのではなく、正義と公正を重んじる観点から、大人や社会の

どこに問題があり、その原因は何かについて前向きに考えることが重要なのです。そうした態度をもつことにより、いずれ子どもたちが社会に進出していったとしても、社会に潜む問題点を見逃さず、その解決に向けて取り組む倫理観の高い大人になっていくのです。

学校では、何か問題があったときではなく、常に学級活動や道徳科の授業において、自己中心的な考え方から脱却して、公のことに自分のこととのかかわりに目を向けさせ、学級や学年をよりよくしていこうとする気持ちを通して、自分自身を高めていこうという資質の育成のために教員たちは発達段階に応じた指導をしています。また、「見て見ぬふりをする」ことや、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、不正を憎み、不正な言動を断固として否定するほどの、たくましい態度が育つように指導しております。

ただし、子どもたちには個人差があります。

それらの価値観を受け入れ実践していこうと努力する子どもがいれば、そのときは理解しても休み時間になって友達という集団の中に入ってしまうと忘れてしまう子どももいます。

そこで、ご家庭でも、お子さんがおもしろおかしい事象だけに流されていたり、若者の社会的不正に関する報道に同調するそぶりを見せているときには、その真意を問うたり、お子さんの家庭外での言動について話題にしてみるなど、集団の中における人間個人の弱さについて考えさせ、どのような立ち居振る舞いが望ましいのかについてご指導いただくと幸いです。

(参考: 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」)

修学旅行に続けて運動会

3年生にとっては、立て続けに大きな最後の行事がありました。

修学旅行は1年生の清里移動教室、2年生の下田移動教室などの宿泊行事の集大成でした。これで、この学年で宿泊を伴う行事は終わりました。3年生の保護者の方は、お子さんから話を聞いていることと思いますが、1・2年生の保護者の方はご存じないと思いますので、今回の修学旅行の概要をお知らせいたします。

1日目は、東京駅から新幹線で京都駅に到着したあと、バス移動で平等院・法隆寺・興福寺を参観し、奈良の宿泊場所に到着しました。夜には薬師寺の僧侶の法話を聞くことも



できました。私が見る限り、声を出して笑いながら楽しめるときは大いに楽しみ、説明や指示を聞くときは静粛に傾聴するなど、けじめを付けて行動していると感じました。

2日目は、バスで東大寺に行き、大仏殿から京都の宿舎までは班行動となりました。奈良から京都駅に向かうのも班ごとにJRか近鉄線を使用し、班独自の行動となりました。



ただし、13:30～15:30の間に、二条城もしくは清水寺でチェ

ックを受けるというノルマがありました。また、昼食は、班ごとに予定していた店舗などで、それぞれが好みのものを食べました。中には、お小遣いを節約するためにできるだけ安く済ませた人や班もあったようです。班に一つスマートフォンを貸与したため、困ったときや計画の変更があったときなど、本部携帯に電話がありました。ほぼ全班が指定の時刻までに宿舎に到着しました。1日目に比べて、体力を使いましたが、子どもたちの表情からは充実感や達成感が伝わってきました。

3日目は、班ごとにジャンボタクシーで行動しました。事前に計画表を送ってありましたが、運転手さんの助言で微調整してもらうこともありました。運転手さん方は、皆さん学生への対応は慣れており、子どもたちは京都弁の話しに関心をもったようでした。昼食も途中でとり、京都駅には全車が定刻通りに到着しました。帰りの新幹線では、疲れて寝ている子どももいましたが、最後まで楽しんでいる子どもたちが多かったです。



3年生にとっては、最後の宿泊行事が思い出深いものとなったことでしょう。おそらく、冬の面接練習で「中学校生活で楽しかった思い出を一つだけ答えて下さい」という質問に対して、「修学旅行です」と回答する子どもたちが多く出てくることと思います。

今の1・2年生も、そんな印象に残る修学旅行にするには、自分たちの裁量で活動する時間が多くなる修学旅行にすることが重要です。そのためには、移動教室はもちろんのこと、校外学習などの班行動で、互いに協力し合ったり助け合ったりして課題を解決したり、行動上のルールを守れるようになることにより、学年の教員から「任せられる」という信頼を勝ち取る必要があります。さらには、日常の学校生活で時間を守る、友達を思いやる、正義を貫くなどの当たり前の行動ができるように指導してまいりたいと思います。

さて、3年生は修学旅行から帰ってきたら、すでに運動会の1週間前となっていました。種目別練習や学年種目練習は修学旅行前から早めに準備はしていたものの、最後の仕上げをするには慌ただしかったと思

います。しかし、修学旅行で個人・学級として一回り大きくなったのはもちろんのこと、学年としても大きな力を持ち、これまでの三中の運動会の伝統を知っている3年生だからこそ、係活動などの運動会の運営者としての自覚も強く、精力的に行動ができたと思います。これらの姿は1・2年生にも伝わったのではないかと思います。



種目によって勝ち負けがあったり、順位付けがあったりしますが、学級が一丸となって取り組むことの価値も見いだせたのではないかと思います。三組の子どもたちも交流学級に入り、その学級の一員となって勝利や美しさという目標に向けて邁進するとともに、クラスの友達も仲間として受け入れていたのもすてきな姿だと思いました。



3年生にとって、三中の運動会はこれで終わりとなりますが、今回の3年生の各学級単位の努力は、2学期の合唱コンクールに引き継がれていきます。各学級とも良い合唱を作りあげてくれ

るのではないかという期待をもたせてくれた運動会でした。

さあ、これらのような活躍を見せた3年生でしたが、運動会が終わって待っていたのは……。3年生の中には、そのことも見据えて準備をしていた子どももいたことと思います。

そして定期考査

運動会が終わって翌週に登校し始めたら、すぐに定期考査1週間前となりました。

3年生の中には、すでに高校見学に行っている子どもがたくさんいますが、今回の定期考査は3年生にとっては結構重要です。

3年生の2学期末の評価・評定は1・2学期総合の評価・評定となり、その結果が3年生の受験の時に調査書等に記載されることとなります。つまり、1学期の評価材料の比較的大きなシェアを占める今回の定期考査は、2学期末の評価・評定にも大きく影響してくるということです。

3年生の子どもたちは、すでにそのことは承知していることですが、頭では分かっているも焦りや危機感にまで至っているかどうかは疑問です。受験自体もそうですが、「これですべてが決まってしまう」と思い詰めるほどのことではありませんが、私たち大人が常々意識しているように「後悔の残らない生き方」をキーワードにお子さんを励ましてあげてください。

1年生にとっては、まだ中学校の通知表をもらった経験がないので、定期考査の重要性がイメージできないかもしれませんが、通知表をもらって「中間考査・期末考査って大事なんだなあ」と思えばいいのではないのでしょうか。

お知らせ

- 5月18日(土)の汐入小学校運動会のボランティアとして、以下の子どもたちが応募しました。
1年 掛川 大輝、河野上 大嘉、謝 雨、長島 ゆら、宮下 遙、井波 紗和、金 明奂、
柴山 灯里、松田 悠矢、石井 諒佑、児玉 こまち、増田 柊司、本山 和歩、
岡嶋 朱音、山藤 実咲
2年 鈴木 佐和、ソルディ アンジェリカ華
※以上17名の応募がありましたが、募集が8名だったため、この中から8名の子どもたちに当日の活動をお願いしました。活動ができなかった9名の子どもたちの保護者の皆様、応募にご協力くださりありがとうございます。本校のボランティア活動は、他にもたくさんありますので、その機会に再び応募していただきますようお願いいたします。
- 第75回東京都中学校地域別陸上競技大会において以下の成績を収めました。
男子東部2年 100m 第4位 水谷 朝陽 記録11秒82
- 「フライングディスク競技 アキュラシー ディスリート5 13歳以上の部」で以下の成績を収めました。 A9組 3サイト 金メダル 中島 有彩
「フライングディスク競技 アキュラシー ディスリート7 14歳以上の部」で以下の成績を収めました。 A-6-1組 6サイト 金メダル 張 一泓
- 7月29日・30日にかけて釜石市方面を視察する「被災地訪問」に、本校代表として以下の子どもたちが参加します。
2年 飯野 愛麻、倉田 一慶
- 8月27日に荒川区議会議場にて開催される「荒川区子ども議会」に、本校代表として以下の子どもたちが参加します。
2年 武藤 琉花 3年 丸谷 周